

## 要旨

### 【研究目的】

脳卒中後の患者の姿勢が、経鼻胃管からの栄養時にポジショニングされた後、どのように変化していくのか、また、そのような患者を受け持つ看護師がどのような知識・判断を元にして栄養時の患者のポジショニングを行なっているのかを明らかにする。そこから、患者の姿勢が崩れやすくなる要因を探索し、どうすれば栄養を受けている間、患者が安全・安楽な姿勢でいられるのかを考察する。

### 【研究方法】

研究デザインは事例研究とした。脳卒中後の患者 8 名と患者のポジショニングや栄養注入を行う看護師・ケアワーカーを研究対象とした。1 人の患者につき 3 日間、昼の経鼻胃管からの栄養時に、看護師・ケアワーカーに対してポジショニングや栄養注入を行う様子を観察し、インタビューするとともに、患者に対してはポジショニングされた後の姿勢の観察と体幹の位置の測定を 30 分毎に行い、姿勢の変化を記録した。

### 【結果】

今回の対象患者 8 人とも、ポジショニングされた姿勢から、苦痛と思われるような目立った姿勢の崩れをきたしたものはなかった。しかし、体幹の位置の測定を行ったところ、時間とともに体幹の移動がおきた患者は抽出できた。体幹の移動がおきた時の患者の傾向としては、ギャッチアップ角度が  $40^{\circ}$  以上に上がり、患者自身の体動が見られた時であった。

また、看護師は逆流・誤嚥・誤嚥性肺炎・嘔吐を予防するためにギャッチアップしていたが、その角度は、意図した角度よりも実際の角度が有意に低かった。

### 【結論】

ギャッチアップ時の姿勢の変化の要因として、体動とギャッチアップの角度が示唆された。

また、看護師のギャッチアップ角度が意図した角度に上げられていなかったことから、今後、脳卒中患者における経鼻経管栄養中の適正な角度についてエビデンスのある研究と、その角度に確実にギャッチアップする看護技術の普及が必要であると考ええる。